

## 金山 (かなやま) 239m

金山は太田市の北にあり、山全体が国内最大級の戦国山城としての遺構で、国の史跡にも指定されている。

大光院

山号・義重山、宗派・浄土宗、本尊・阿弥陀如来

創建慶長18年(1613) 別称・呑龍さま

新田神社

明治8年(1875) 金山城本丸跡に建立された神社。新田義貞公が祭られている樹齢800年以上と言われる大ケヤキがある。

曹源寺(さざえ堂)

文治3年(1187) 新田氏の始祖新田義重公が、京から迎えた養姫の菩提を弔うために創建した。本堂は百体観音像が安置されている。さざえ堂は内部が螺旋の回廊になっていることから、さざえ堂とよばれるている。現在修復中

新田金山城(にったかなやまじょう)

金山の頂上にある山城であり、現在は本丸跡とされている地点に新田神社がある。背後の斜面には石垣の一部が、遺存しており往時の様子を現在に伝える。関東平野を一望に収めることができ、西方は一段低くなっており「日ノ池」「月の池」がある。西南には二の丸跡、三の丸跡と呼ばれる曲輪が残り、これら曲輪につながる尾根郡には堀切が設けられている。また南曲輪には中島飛行機の創設者である、中島知久平の胸像が建てられている。

別 名：金山城、太田金山城

城郭構造：連郭式山城

築城主：新田一族、岩松家純(いえずみ)

築城年：1469(文明18年)

廃城年：1590(天正18年)

遺 構：石垣、土塁、堀、馬出し、井戸

指定文化財：国の史跡